

「基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究」

審査の手引きから見る科研費応募書類の審査について

本資料作成のきっかけ

◇ 2019・2020 研究活動スタート支援 2 年連続全減・・・

◇ しっかり審査方法を確認しよう！！

本資料の目的

◇ 全ての調書は「点数で評価される」ことを理解しよう！

◇ 評価チェックシートを活用して、他者からの評価や自己点検に役立てよう！

採択されるためには

◇ 各評点要素（1. 学術的重要性 2. 研究方法の妥当性 3. 研究遂行能力及び研究環境の適切性）で評価 4 または 3 を取る！1 つでも評価 2 が付いたら危険！！

◇ 総合評点で評価 4 または 3 を取る！評価 2 が付いたら危険！！

「科研費審査システム改革2018」の概要

科研費の公募・審査の在り方を抜本的に見直し、
多様かつ独創的な学術研究を振興する

従来の審査システム（平成29年度助成）

新たな審査区分と審査方式 平成30年度助成（平成29年9月公募）～

最大400余の細目等で 公募・審査

細目数は321、応募件数が最多の
「基盤研究（C）」はキーワードにより
さらに細分化した432の審査区分で審査。

基盤研究（S）
基盤研究（A）
（B）
（C）
若手研究（A）
（B）

- ・ほとんどの研究種目で、細目ごとに同様の審査を実施。
- ・書面審査と合議審査を異なる審査委員が実施する2段階審査方式。

※「挑戦的萌芽研究」を廃止・見直し、平成29年度公募から新設した「挑戦的研究」では、「中区分」を使用するとともに「総合審査」を先行実施。

「分科細目表」を廃止

新たな審査システムへ移行

大区分（11）で公募・審査 中区分を複数集めた審査区分

基盤研究（S）

中区分（65）で公募・審査 小区分を複数集めた審査区分

基盤研究（A）

挑戦的研究

小区分（306）で公募・審査 これまで醸成されてきた多様な学術に対応する審査区分

基盤研究（B）
（C）

若手研究

「総合審査」方式－より多角的に－

個別の小区分にとらわれることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。

※基盤研究（S）については、「審査意見書」を活用。

- ・特定の分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。

- ・改善点（審査コメント）をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。

「2段階書面審査」方式－より効率的に－

同一の審査委員が電子システム上で2段階にわたり書面審査を実施し、採否を決定。

- ・他の審査委員の評価を踏まえ、自身の評価結果の再検討。
- ・会議体としての合議審査を実施しないため審査の効率化。

注）人文社会・理工・生物等の「系」単位で審査を行っている大規模研究種目（「特別推進研究」、「新学術領域研究」）の審査区分は基本的に現行どおり実施する。審査方式については、当該種目の見直しの進捗を踏まえて逐次改善する予定。

※詳しくは、文科省HPをご確認ください。（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1380674.htm）

5

審査方式の見直し（新旧比較）③

新方式（2段階書面審査）

書面審査の点数にこだわらず検討し、全審査委員が研究計画調書に基づき、対等な立場で議論ができる「総合審査方式」は理想的な審査方式である。

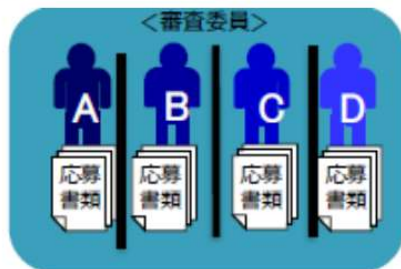
一方、全ての研究種目において「総合審査方式」を導入することはコストと審査委員負担の面から困難。

そこで、「総合審査方式」同様、他の審査委員の意見を参照できる「2段階書面審査方式」も導入。

②2段階書面審査方式（小区分）

1段階目の書面審査（小区分ごと）

1課題当たり、「小区分」ごとに配置された複数の審査委員が電子システム上で書面審査を（相対評価）を実施。



2段階目の書面審査（小区分ごと）

1段階目の書面審査の集計結果をもとに、他の委員の審査意見も参考に電子システム上で 2段階目の採点を付し、採否を決定（審査委員は1段階目と同一）。



「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できる審査方式へと変更。

10

「審査における評価基準等（令和2（2020）年度）」及び「平成31年度（2019年度）科学研究費助成事業 基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究審査の手引き（一部抜粋）」
（赤下線、注目！マーク、完遂目標は研究支援センターにより追記）

（1）審査区分、審査方法

基盤研究等の審査は、審査区分表の小区分ごとに設定した各審査グループで、同一の審査委員が2段階にわたり書面による審査を実施する2段階書面審査方式によって行われます。

2段階書面審査では、まず、各審査グループに属する審査委員が研究計画調書によって個別に審査を行います（1段階目の書面審査）。さらに、1段階目の書面審査結果を基にして、採否のボーダーライン（採択予定件数の上位80～120％に当たる研究課題。詳細は10頁参照）となった研究課題のみを対象に、他の審査委員が付した1段階目の審査意見等を確認してあらためて書面審査を行います（2段階目の書面審査）。最終的には、1段階目の書面審査結果の上位の研究課題及び2段階目の書面審査結果に基づき採択研究課題を決定します。1段階目、2段階目の審査は、いずれも同じ審査委員が実施します。

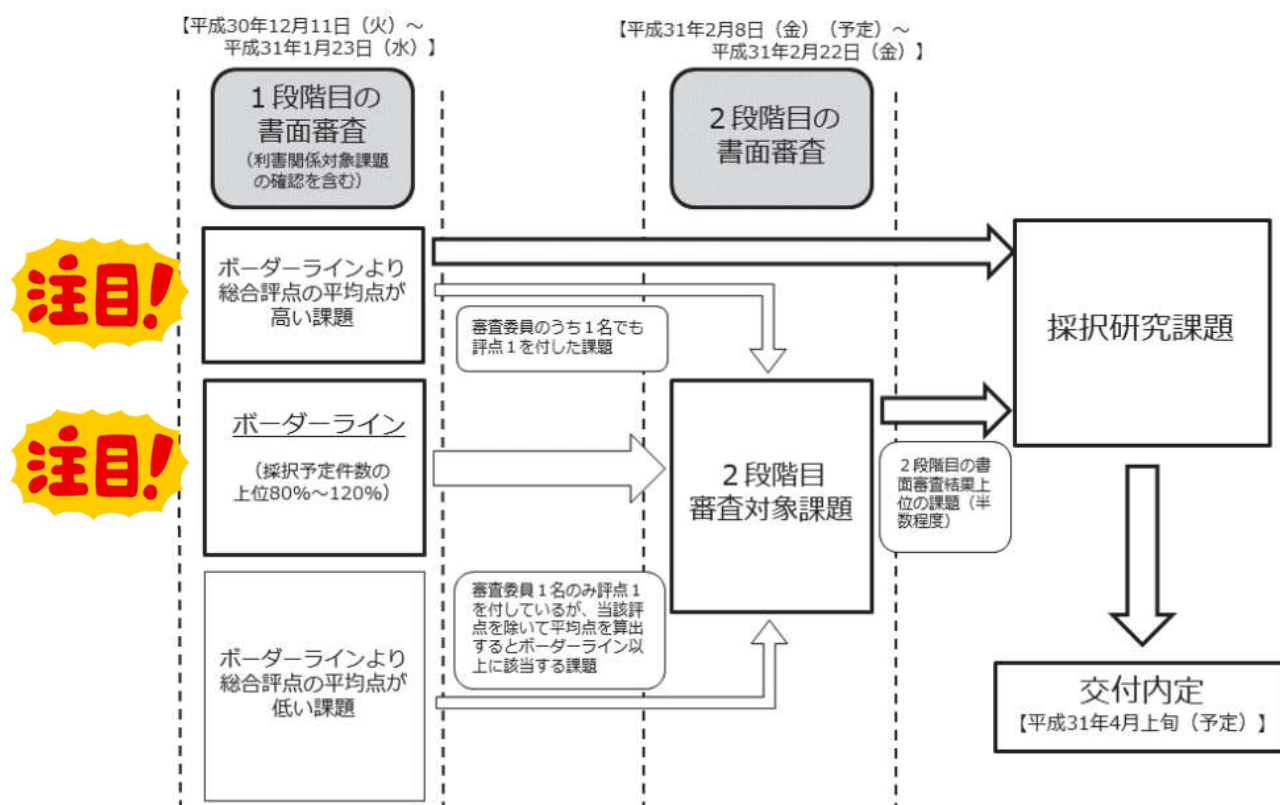
小区分の中で応募研究課題が非常に多い場合は、適正な審査が可能な件数とするために応募研究課題を機械的に分割し、複数の審査グループによる審査を行います。

審査に当たっては、研究代表者から提案された研究課題について、学術的独自性や創造性、研究目的の明確さ等を考慮するとともに、当該研究者の研究遂行能力をも厳正に評価してください。

（2）審査の流れ

基盤研究等の審査は次のような流れで行われます。各審査委員は2段階にわたり書面審査を行うことになります。

【2段階書面審査の流れ（イメージ）】



(1) 審査方法

審査は、以下の点に留意した上で、〔参考1〕に明示する「基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究の書面審査における評価基準等」（13頁）に従って行ってください。

1段階目の審査においては、4段階による総合評点を相対的な評価に基づいて付すとともに、個別の評定要素に関する絶対評価を行ってください。

なお、高い総合評点を付す研究課題は、必ずしも、全ての個別要素において高い評価を得た研究課題である必要はありません。研究内容等に関する個別の評定要素に関する審査結果は、不採択者のうち、審査結果の開示を希望した応募者に開示するために使用します。幅広く重要な研究を見だし、学術研究が進展するよう、適切な評価を行ってください。

① 総合評点の付し方（評点分布）

1段階目の書面審査における評点分布は、審査区分ごとに応募件数に応じて設定します。各審査委員は、システムで示される評点分布に従って評点を付してください。

この際、総合評点の分布がシステム上の設定と一致しない限り、審査を終了できません。このため、特に1段階目の書面審査においては、設定された件数の制約のために評点を調整して入力（例えば「3」としたいものを件数制限のためやむを得ず「2」と入力）した研究課題については、その旨を審査意見に記入し2段階目の書面審査の参考になるようにしてください。

② 審査意見の記入について

2段階目の審査においては、他の審査委員の意見を確認してあらためて評価を行うこととしております。そのため、全ての研究課題に対して、評点に加え、研究課題に対する所見や、その評価に至ったポイント（応募研究課題の長所や短所など）をシステム上の『審査意見』欄に原則として200字以内で記入してください（200字に収まらない場合は、システム上の『審査意見』欄は、最大300字まで入力が可能です）。

その際、他の審査委員にその内容が十分伝わるよう記入することが必要です。なお、この『審査意見』は応募者には開示されません。

③ 研究経費の妥当性について

科研費の効果的・効率的配分を図る観点から、研究経費の妥当性・必要性について、研究経費の内容に問題があり、充足率（応募額に対する配分額の割合）を低くすることが望ましい場合にはシステム上で「×」を付してください。

「×」を付した審査委員が複数となった研究課題については、平均充足率よりも低い配分額を設定します。

④ 研究計画調書の「研究費の応募・受入等の状況」欄について

当該欄に記載されている内容は、審査において付す総合評点には考慮しないでください。

競争的資金の不合理な重複や過度の集中が起こることなく、研究課題を十分に遂行しうるかどうかを、当該欄を参照して判断してください。明らかに「競争的資金

の不合理的な重複や過度の集中に該当し、研究課題が十分遂行し得ない」と判断した研究課題がある場合には、その理由をシステムの「その判断に至った理由」欄に記入してください。

なお、単に、他の研究費制度（科学技術振興機構（JST）や日本医療研究開発機構（AMED）が実施している事業等）の助成対象となり得るという理由や、応募者が他の研究費制度による事業を実施中であるという理由だけで、評価を下げるといった不利益な取扱いをしてはいけません。

⑤ 研究計画調書の「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄について

研究計画の遂行において人権保護や法令等の遵守が必要とされる研究課題については、関連する法令等に基づき、研究機関内外の倫理委員会等の承認を得るなど必要な手続き・対策等を行った上で、研究計画を実施することになります。このため、本欄に記載の内容は評価項目としては考慮せず、手続き等に問題があったとしてもその研究課題の評価を下げないでください。

⑥ researchmap 及び科学研究費助成事業データベース（KAKEN）の利用について

平成 31 年度(2019 年度)の審査より、電子審査システムから researchmap 及び科学研究費助成データベース(KAKEN)の掲載情報を、直接リンクを張る形で必要に応じて参照できるようになりました。

改めて言うまでもありませんが、科研費の審査は研究計画調書に基づいて行うことが基本です。researchmap や KAKEN の利用は、研究計画調書に記載された内容を確認するためなど、補助的な使い方に留めてください。

また、以下の点にご留意ください。

- ・researchmap には、審査には関係が無い情報が登録されている場合もありますが、審査がそれらに影響されることのないようにしてください。
- ・応募者の情報が researchmap に未登録ないしは登録内容が不十分との理由で評価を下げることや、データベースの情報のみに基づいて評価することのないよう、注意してください。

1 基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究の 書面審査における評価基準等

「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（抜粋）
（平成29年8月28日独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会決定）
平成30年10月3日改正

科学研究費助成事業（科研費）は、全ての研究分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とするものです。配分審査にあたって、各審査委員は、応募研究課題について、この目的に大きく寄与するかどうかを適切かつ公正に判断することが求められます。

〔評価要素〕

（1）研究課題の学術的重要性

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。
- ・本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

採択された課題の評点平均から
完遂目標を設定しました。

研究支援センター

注目!

評点区分	評価基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

～完遂目標～
学術的重要性 4 項目について
評点 4 を 2 つ、評点 3 を 2 つ

（2）研究方法の妥当性

- ・研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。
- ・研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。

注目!

評点区分	評価基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

～完遂目標～
妥当性 2 項目について
評点 3 を 2 つ

（3）研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

注目!

評点区分	評価基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

～完遂目標～
能力・環境 2 項目について
評点 4 を 1 つ、評点 3 を 1 つ

〔1段階目の審査における総合評点及び審査意見の記入〕

【1段階目の審査における総合評点】

各研究課題の採択について、上記（１）～（３）の評定要素に着目しつつ、総合的な判断の上、下表右欄の評点分布に従って４段階評価を行い、総合評点を付してください。（担当研究課題数が少ない場合は、この限りではありません。）

なお、「利害関係」にあたる研究課題の場合は「利害関係の理由」欄に理由を記入してください。

また、研究計画調書における「研究費の応募・受入等の状況」欄、「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄は、審査において付す総合評点には考慮しないこととしているため、それ以外の各欄等に基づいて総合評点を付してください。「研究費の応募・受入等の状況」欄、「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄の審査における取扱いは、「iii 留意事項」を確認してください。



評点区分	評点分布の目安
4	10%
3	20%
2	40%
1	30%
利害関係があるので判定できない	—

～完遂目標～
評点 3

注：評価にあたっては、以下を目安として評点を付してください。

「4：非常に優れている」、「3：優れている」、「2：普通」、
「1：劣っている」

ii その他の評価項目

研究経費の妥当性

よくある質問「研究費はどれくらいにしたらよいか」

新規採択の場合、だいたい応募額の3割は削減されてしまいます。

無理のない範囲であれば、各種目の上限額まで応募することをお勧めします。

科研費の効率的・効率的配分を図る観点から、研究経費の妥当性・必要性について以下の点を考慮し、研究経費の内容に問題があり、充足率を低くすることが望ましい場合には「×」を付してください。「×」を付した審査委員が複数となった研究課題については、平均充足率よりも低く設定します。

- ・研究経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれるか。
- ・設備備品の購入経費等は研究計画遂行上真に必要なものが計上されているか。
- ・研究設備の購入経費、旅費又は人件費・謝金のいずれかの経費が90%を超えて計上されている場合には、研究計画遂行上有効に使用されることが見込まれるか。

（参考）平成31年度配分状況（新規採択研究課題の平均充足率）



基盤研究（B）（一般）	71.2%
基盤研究（C）（一般）	66.9%
若手研究	64.9%

研究支援センター作成「科研費研究計画調書評価チェックシート」

専門外の審査委員にも十分すぎるほど理解されているかが重要

【1. 評点要素】

(1) 研究課題の学術的重要性	評点
・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。	
・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。	
・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置付けは明確であるか。	
・本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果は期待できるか。	

(2) 研究方法の妥当性	評点
・研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。	
・研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。	

(3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性	評点
・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。	
・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。	

評点区分	評定基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

【2. 総合評価】「 」

評点区分	評点分布の目安
4	10%
3	20%
2	40%
1	30%
利害関係があるので判定できない	—

注：評価にあたっては、以下を目安として評点を付してください。

「4：非常に優れている」、「3：優れている」、「2：普通」、「1：劣っている」